

○ 基本的な方向性

乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期であり、全ての子どもに対して、遊びや生活の中で、将来の学びにつながる質の高い幼児教育・保育を行うことが必要である。また、少子化に伴い幼児教育・保育の需要が減少していく中であっても、多様な保護者のニーズに的確に対応できるようにしていく必要がある。

そのため、公立・私立、幼稚園・保育園等を問わず、全体最適の視点に立って、幼児教育・保育の一体的な質の向上を図るとともに、持続可能な提供体制を再構築していく。

○ 進め方

- ・ 幼児教育・保育の一体的な質の向上については、乳幼児教育保育支援センターのこれまでの取組を発展させるよう、その機能の強化及び内容の充実を図ることが考えられる。
- ・ 現在、市内の幼稚園、保育園等の半数以上は、社会福祉法人や学校法人等が運営する私立園であり、園ごとに独自の方針に基づいて特色のある幼児教育・保育を実施していることに加え、長時間の延長保育や一時預かり、預かり保育など、多様なサービスの提供を主に担っている。こうした現状を踏まえ、持続可能な提供体制の再構築に当たっては、効果・効率性の観点から、私立園の強みを生かしつつ、公立園はその特性を踏まえた役割を主に担っていくことが考えられる。

【 私立園・公立園の特性 及び 特性を生かした役割として考えられるものの例 】

	私立園	公立園
特性	○ 独自の理念や方針に沿った、特色のある幼児教育・保育の実施 ○ 柔軟な運営体制をいかした多様なサービスの提供	○ 行政機関としての公益性（セーフティネットの担い手、地域における幼児教育・保育の質向上の推進役） ○ こども療育センターとの人事交流等による障害児保育の専門知識・技術の蓄積
役割	○ 多様な保護者ニーズへの対応	○ 休日保育の実施 ○ 特に専門的な支援を必要とする子どもの受入 ○ 災害発生時の支援 ○ 地域の子育て家庭への支援 ○ 中山間地域におけるセーフティネット

- ・ 上記に加え、公立園については複数の機能を一部の園に集約し、その園を地域における質向上の推進役及び公立園として果たすべき役割の推進役とし、その効果・効率性をさらに高めることも考えられる。